

平成 30 年度 沖縄振興実現調査

「沖縄における希少作物の産地化
及び観光資源化検討調査」

調査報告書



平成 31 年 3 月

内閣府沖縄総合事務局農林水産部

表紙写真の説明

①いちご（よつぼし）

沖縄県南城市

②バナナ（島バナナ）

沖縄県宮古島市

③コーヒー（ムンド・ノーボ）

沖縄県東村

は じ め に

沖縄の農林水産業は、亜熱帯地域の温暖な気候の下、各地で特色ある農林水産物が生産されているとともに、新技術の導入や品種改良等により新たな作物の栽培も見られます。また、農林漁業者等による6次産業化への取組や農林水産業への他地域・他産業からの参入等の動きも活発化しています。

一方、沖縄のリーディング産業である観光産業については、近年、クルーズ船の寄港回数の増加等による外国人観光客の大幅な増加もあり、入域観光客数が平成30年は984万人と前年を44万人も上回るなど好調に推移しているところです。沖縄の農林水産業にとって観光客の増加は食材需要の増加のみならず、農林漁業体験を観光資源としても活用することが期待できます。

さて、政府は平成28年11月に、総理を本部長とする「農林水産業・地域の活力創造本部」において、「農業競争力強化プログラム」を決定しました。本プログラムにおいては、生産者が自由に経営展開できる環境を整備し、生産者の努力では解決できない構造的な問題を解決するため、生産資材価格の引下げ、農産物の流通・加工の構造改革、戦略的輸出体制の整備や収入保険制度の導入等を推進していくこととしています。

本調査では、このような近年の農林水産物生産の動向、沖縄への入域観光客の増加及び農林水産施策の方向等を踏まえ、これまで県内での生産量は少ないものの将来性が期待される作物について、現状や課題等を把握し、産地化や観光資源としての活用について検討することとしました。

本調査結果が新たな作物生産や観光農園等の6次産業化に取り組まれる方、関係機関の皆様に活用され、沖縄の農林水産業・食品産業の更なる発展や地域経済の活性化につながれば幸いです。

平成31年3月

農林水産部長 田中 晋太郎

目次

1.	調査について	1
(1)	調査目的	1
(2)	調査・検討内容	1
2.	調査品目の概況	2
(1)	いちご	2
(2)	バナナ	16
(3)	コーヒー	26
3.	品目別収益性・栽培体系事例	34
(1)	いちご	34
(2)	バナナ	43
(3)	コーヒー	52
4.	調査品目の産地化及び観光資源化検討結果	61
(1)	いちご	61
(2)	バナナ	65
(3)	コーヒー	67
(4)	全体検討	69
5.	今後産地化等について検討を要する希少作物	70
(1)	アボカド	70
(2)	インドナツメ	72
(3)	カカオ	73
(4)	ジャボチカバ	75
(5)	ホワイトサポテ	76
(6)	ライム	77
(7)	リュウガン	78
(8)	レイシ（ライチ）	79
(9)	レモン	80
(10)	レンブ	81
6.	沖縄の主要果樹の動向	82
(1)	パインアップル	82
(2)	シークワサー	83
(3)	マンゴー	84
7.	参考資料	85

○ 本文中の年次は、原則として西暦としている。ただし、引用資料に和暦がある場合はこれを用いている。